

令和4年度 学校評価報告書(実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月28日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程・学習指導	①生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。	①知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	①-1 校内授業研究テーマを踏まえた教職員研修会や公開研究授業を積極的にを行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 総合的な探究の時間をはじめとした探究的な学びの充実、STEAM教育の研究推進、ICTを活用した学びの充実を図る。	①-1 魅力と特色アンケート「思考力・判断力・表現力を高めることができたか」の肯定項目が9割以上。 ①-2 生徒による授業評価(項目6)の「かなり当てはまる」が4割以上。	①-1 そう思う【35.9%】、どちらかといえばそう思う【49.4%】、合計【85.3%】となった(回答者数245名)。 ①-2 【35.5%】となった(回答者数6141名)。 【項目6の質問】授業で得た知識をともに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。	①-1 生徒による授業評価は生徒のダイレクトな反応がわかるのが良いところである。課題を洗い出し、授業改善に取り組んでほしい。 ①-2 STEAM教育の取組は今年度から始まったが、年を経るごとに共通認識が生まれ、授業に変化が起きてくると思う。実社会の問題を考える学びを強く進め、現在学習していることがどうつながっていくのかについて気づかせる工夫が必要と思う。	①知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	①-1 校内授業研究テーマを踏まえた教職員研修会や公開研究授業を積極的にを行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 総合的な探究の時間をはじめとした探究的な学びの充実、STEAM教育の研究推進、ICTを活用した学びの充実を図る。	
	②横浜国立大学との中・高・大連携型教育の一層の充実を図る。	②中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	②横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との研究活動や教職員交流等を通じて連携の理念を共有する。また、横浜国立大学との連携を一層深める。	②-1 探究活動の成果発表会である1-ハーベスト発表会が鎌倉芸術館を会場として行われ、探究活動の取組状況について情報を共有することができた。 ②-2 附属小学校・中学校との合同研修会がオンラインで行われ、教職員間で交流を深めた。	②-1 探究活動に關連した連携に加え、教科学習についても議論を深め、実践につなげる。	②コロナ禍でもオンラインで実施できてよかった。職員のかめ細やかな対応に感謝している。	②中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携の理念を充実・発展させる。	②横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との研究活動や教職員交流等を通じて連携の理念を共有する。また、横浜国立大学との連携を一層深める。		
2	生徒指導・支援	①生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。	①新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、これまでの教育活動を継承しつつ新しい形を作れるよう体制づくりを進める。	①制約を創意工夫で乗り越え、生徒の心身の状況や教職員の働き方に留意し、計画的に支援・指導を行う。	①学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのおまわり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上。	①新型コロナウイルス感染症防止を意識しながら、可能な限りの活動かつ積極的に行っていた。アンケートの結果は「学校行事」について79%、「部活動に満足している」について82%という結果であった。	①アンケートでは肯定的な結果となったが、部活動については社会的な取り組み体制の変容に合わせて、目標の再検討が必要である。	①光陵生はグラデュエーション・ポリシーの「突き抜ける力」がまだ弱い印象がある。朝日新聞の「青春スクロール母校群像記」の連載に見られるような個性をもつ人材育成が求められる。 ①-2 行事等コロナ禍でできなくなっていたことをもとに戻す時期だが、見直しや削減も必要である。無理なく負担のない形で進めてほしい。	①新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、これまでの教育活動を継承しつつ新しい形を作れるよう体制づくりを進める。	①制約を創意工夫で乗り越え、生徒の心身の状況や教職員の働き方に留意し、計画的に支援・指導を行う。
	②学校行事等において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していきけるよう支援を行う。	②これまでの学校行事を継承しつつ、新しい形を作れるように、生徒が他者と協働して主体的に取り組めるよう支援する。	②生徒の主体的な行事運営(体育祭、光陵祭、学芸音楽祭)のために、ホームルーム活動の充実を図り、かつ生徒会・各種委員会と教職員の連携を密にする。	②学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上。	②生徒間での活動が円滑に行われるようにサポートをした。 【体育祭】80.7% 【光陵祭】83.5% 【学芸音楽祭】74.3%	②生徒が学校行事に自ら目標をもって参画できる環境づくりを支援する。また、教職員間の情報共有には改善の余地がある。	②学芸音楽祭は感染対策を万全にして、校内で実施までこぎつけたことは良かった。	②これまでの学校行事を継承しつつ、新しい形を作れるように、生徒が他者と協働して主体的に取り組めるよう支援する。	②生徒の主体的な行事運営(体育祭、光陵祭、学芸音楽祭)のために、ホームルーム活動の充実を図り、かつ生徒会・各種委員会と教職員の連携を密にする。	
	③生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	③支援が必要な生徒の状況を把握し、外部人材の活用も図りながら、個別支援に向け組織的対応を進める。	③学年や部活動、教科・科目目など多面的な視点で生徒状況の把握を行い、担任・副担任、教科担当及びSCやSSWとの情報共有を促進する。	③生徒状況の把握について、情報共有が図れた。	③支援を必要としている生徒に対し、教員間の情報共有を積極的に行うことができた。	③他学年の生徒状況については、情報共有する場面設定が難しく、情報共有できる時間を確保することが課題である。	③引き続ききめ細かい生徒支援の継続をお願いしたい。	③支援が必要な生徒の状況を把握し、外部人材の活用も図りながら、個別支援に向け組織的対応を進める。	③学年や部活動、教科・科目目など多面的な視点で生徒状況の把握を行い、担任・副担任、教科担当及びSCやSSWとの情報共有を促進する。	
3	進路指導・支援	①高大接続改革(高校教育、大学入学者選抜、大学教育)を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による自己の在り方生き方の探究を支援する。	①-1 高大接続改革に係る情報収集、分析を綿密に実施し、生徒が自身の生涯を見通して考えることができるように、キャリア教育を実施する。 ①-2 第一志望を諦めさせないよう3年間を見通した進路支援を計画・実施す	①-1 各教科・科目等を始めたことすべての教育活動において生徒のキャリア形成につながるようキャリア教育、ガイダンス機能の充実を図る。 ①-2 生徒が希望する進路の実現に向け、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスや、夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組を実施し、教職員	①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上。 ①-2 キャリアガイダンスや夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、多面的に	①-1 各教科・科目等を始めたことすべての教育活動において、生徒のキャリア形成につながるような支援を組織的に実施した。 ①-2 夏期講習や勉強会、動画によるキャリアガイダンスの実施を通じ、生徒のキャリア形成や学力向上を図った。	①-1 アンケートの該当項目における肯定的な割合は82.1%であり、キャリア教育の取組が、生徒をある程度効果的に支援できていることが明らかとなった。引き続き、取組の改善に努めていく。 ①-2 生徒が最も希望する進路を実現することができるよう、職員とキャリアグループが協働し、組織的な支援を続けている。 ①-3 引き続き、県立総合教育センターや横浜国立大学と連携	①-1 グラデュエーション・ポリシーが生徒と共有されているところが強みとなり、あきらめない姿勢が進路実現に生んでいると思う。 ①-2 学校内に留まらず、地域のリソースを活用する学びがよい。教員不足が深刻な状況で教師支援を計画中の生徒がいるのだから	①-1 高大接続改革に係る情報収集、分析を綿密に実施し、生徒が自身の生涯を見通して考えることができるように、キャリア教育を実施する。 ①-2 第一志望を諦めさせないよう3年間を見通した進路支援を計画・実施す	①-1 各教科・科目等を始めたことすべての教育活動において生徒のキャリア形成につながるようキャリア教育、ガイダンス機能の充実を図る。 ①-2 生徒が希望する進路の実現に向け、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスや、夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組を実施し、教職員の情

		る。 ①-3 教職を志す生徒のために支援を充実させる。	の情報共有を促進する。 ①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」の設定と実施。	行われたか。 ①-3 学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」において多様な指導ができたか。	①-3 学校設定科目「教職基礎」を55名の生徒が、「教職基礎演習」を6名の生徒が履修し、教職に関する実践的な学びに取り組んだ。	しながら、教職に関わる様々な取組を実施していく。	近隣学校として全面的に協力したい。	る。 ①-3 教職を志す生徒のために支援を充実させる。	報共有を促進する。 ①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」の設定と実施。
4	地域等との協働	①地域との連携を推進することで、多様性を尊重し、生徒の社会性や協働する力を育む。	①-1 新型コロナウイルス感染症の影響がある中で新しい地域貢献の形を模索する。引き続き、生徒の社会性、協働する力を養う。 ①-2 本校の教育活動を外部に広く発信していく。	①-1 近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続して実施し、コミュニケーション能力の育成と他者理解を深める。 ①-2 学校説明会やホームページ等を活用し、本校の教育活動についての情報発信を行う。	①-1 参加した生徒が、自己肯定感、協働、活動の楽しさ等の満足感を得ることができたか。 ①-2 学校説明会等におけるアンケートにおける「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が8割以上か。	①-1 保土ヶ谷養護学校との交流について、今年度は交流の環境が整わないため実施見送りとした。地域貢献活動は生徒を中心に有志を募り商店街のイベントや近隣施設等を訪問し、演奏を行いコミュニケーション能力の育成と他者理解を深めることができた。 ①-2 学校説明会を4回、夏の学校見学会を11回実施した。学校ホームページによる情報発信を充実させた。学習活動・学校生活について興味をもったという回答は96%となった。	①-1 保土ヶ谷養護学校との交流を体育祭で実施できるように環境を整えていく。地域貢献活動では継続してイベントや近隣施設への訪問を実施する。 ①-2 改修工事で体育館が使用できない中で、今後どのように説明会を充実させていくか検討するとともに、学校ホームページのさらなる充実を図る。	①-1 新型コロナウイルス感染症の影響がある中で新しい地域貢献の形を模索する。引き続き、生徒の社会性、協働する力を養う。 ①-2 本校の教育活動を外部に広く発信していく。	①-1 近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続して実施し、コミュニケーション能力の育成と他者理解を深める。 ①-2 学校説明会やホームページ等を活用し、本校の教育活動についての情報発信を行う。
5	学校管理 学校運営	①学校が目指す姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組める組織とする。 ②コミュニティスクールとして、学校運営協議会委員会の意向を踏まえ、よりよい教育環境を整備する。	①②③ 事故防止を徹底するために、教職員間のコミュニケーションに努め、情報共有を図る。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事が円滑に行えないことや体育館の改修工事に関する対応が迫られる中で職員のリジリエンスに対する理解を深める。 ④ 体育館改修工事の安全確保と良質な学習環境を整備する。 ⑤ 働き方改革を推進し、長時間勤務を是正する。	①②③ 多様な職員研修を実施し、中堅教員、ベテラン教員の経験を生かした若手教員のサポート体制及び学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい環境づくりに努める。また、生徒の状況把握や職員の連絡体制を充実させる。 ④ 体育館改修工事中の学習環境を整え、生徒が安心安全に活動することを確保できたか。 ⑤ 教職員がICT活用等により、組織的な学校運営と校務の効率化が図られたと実感できたか。	①職員研修の実施回数が12回以上か。 ②職員への情報発信による共有化に努めるとともに、学校から外部への情報発信が推進できたか。 ③レジリエンスに対する理解を研修や情報提供によって深めることができたか。 ④体育館の物品移動等、円滑に行うことができた。また、ゴミ捨て場を中庭から昇降口に移動するなど、改修工事に伴う問題点も少しずつ対応していくことができた。 ⑤会議等のペーパーレス化に向けて、会議室・応接室等にもアクセスポイントを設置し、教員にも1人1台Chromebookを貸出し、ICT活用を推進した。	①引き続き、多様な研修会を実施する。 ②生徒・職員がICT端末を円滑に活用できるように指導や研修会を行う。 ③人権研修会や生徒のレジリエンスの取組の共有を図った。 ④安心安全を第一に考え、発生する問題点を臨機応変に対応していく。 ⑤通信状況に影響を受ける面も多々あるが、職員のICT活用への意識付けを継続する。	①会議のペーパーレス化は良いが、山のような情報を見ていただくだけでは難しく、当面は紙と電子のハイブリットでの活用だと考える。 ②保護者あて文書はペーパーレス化を進めてもよいのではないかと。	①②③ 事故防止を徹底するために、教職員間のコミュニケーションに努め、情報共有を図る。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事が円滑に行えないことや体育館の改修工事に関する対応が迫られる中で職員のリジリエンスに対する理解を深める。 ④ 体育館改修工事の安全確保と良質な学習環境を整備する。 ⑤ 働き方改革を推進し、長時間勤務を是正する。	①②③ 多様な職員研修を実施し、中堅教員、ベテラン教員の経験を生かした若手教員のサポート体制及び学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい環境づくりに努める。また、生徒の状況把握や職員の連絡体制を充実させる。 ④ 体育館改修工事中の学習環境を整え、生徒が安心安全に活動することを確保できたか。 ⑤ ICT活用を推進し、職員の報告・連絡・相談体制の整備及び勤務時間内の会議の徹底を図る。
		③ 生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ④ 耐震工事の機会を利用し、教育環境の整備を行う。	① 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	①-1 校内授業研究テーマを踏まえた教職員研修会や公開研究授業を積極的に行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 総合的な探究の時間をはじめとした探究的な学びの充実、STEAM教育の研究推進、ICTを活用した学びの充実を図る。	①-1 魅力と特色アンケート「思考力・判断力・表現力を高めることができたか」の肯定項目が9割以上か。 ①-2 生徒による授業評価(項目6)の「かなり当てはまる」が4割以上か。	①-1 学校全体の教育活動において「探究的な取組」が活発になるように工夫を続けていく。 ①-2 KUスプラウトにおける成果発表。 ①-3 各教科に対して、探究的な取組の実施依頼やKUと各教科の取組をより関連付ける。	①-1 生徒による授業評価は生徒のダイレクトな反応がわかるのが良いところである。課題を洗い出し、授業改善に取り組んでほしい。 ①-2 STEAM教育の取組は今年度から始まったが、年を経るごとに共通認識が生まれ、授業に変化が起きてくると思う。実社会の問題を考える学びを粘り強く進めて、現在学習していることがどうつながっていくのかについて気づかせる工夫が必要と思う。	①知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	①-1 校内授業研究テーマを踏まえた教職員研修会や公開研究授業を積極的に行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 総合的な探究の時間をはじめとした探究的な学びの充実、STEAM教育の研究推進、ICTを活用した学びの充実を図る。
		⑤ 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	② 中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	② 横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との研究活動や教職員交流等を通じて連携の理念を共有する。また、横浜国立大学との連携を一層深める。	② 横浜国立大学との連携の充実が図れたか。	② 探究活動に関連した連携に加え、教科学習についても議論の深い、実践につなげる。	③ ICTの利活用により教職員の働き方改革(テレワーク等)が進むのもよい。	② 中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	② 横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との研究活動や教職員交流等を通じて連携の理念を共有する。また、横浜国立大学との連携を一層深める。

